

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	「室蘭が好き。」を増やして、みんなで済み続けたいマチを創る。	室蘭
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	市民を繋げる掲示板		

(注1) 地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名 (公開)	Contenders		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 (公開)	5名		
代表者 (公開)	石川大聖		
メンバー (公開)	津村祐希、楡井優太郎、DO DANG KHOA、原田大響		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認



2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

解決したい課題としては、市民が市を離れることを防ぐという事である。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

誰が→市民同士が

いつ→パソコンがあればいつでも

どこで→パソコンがあればどこでも

どのように→アプリケーション上でチャットシステムを用いて他人と関わりを持てる

市民同士を繋げることが目的で、主に市民の方々に使用してもらい、パソコンがあればいつでもどこでも、アプリケーション上でチャットシステムを用い、人々の繋がりを深める事を可能にするものである。

実行される場面としては、日常生活でパソコンを使い、趣味や日常的な会話をしたいときにこのアプリを使用することで、市民同士の関わりを増やし、コミュニティを得ることができる。室蘭市内でコミュニティを得ると互いが引き合い、「この人がいるから室蘭から離れたくない」というような室蘭市民同士の好きを増やし室蘭離れを減少させることができる。

例えば、同じ趣味(今回は音楽)を持った人同士が、チャットで会話し、好きな音楽について会話したり、一緒にカラオケに行ったりと、チャットから繋がる地域住民同士の関わり合いを増やすことが可能であると考え。もっと仲が深まれば、今回の例で言えば好きなアーティストのライブに行ったり、旅行に行ったりすることも可能になると考える。

またこのアプリケーションにはニュースの表示機能を+aで追加している。室蘭市のニュースや出来事を知ることができる。室蘭市のホームページや室蘭民報を閲覧することで室蘭を知る機会を得て興味を深める、ユーザーがチャットするための話題作りとなることを想定している。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明

→大きく分けてチャット機能とニュースの閲覧の2つの機能がある。主に市民同士にチャット機能を使用してもらい、住民同士の関わり合いを増やす事が目的である。同じ趣味を共有したり時事について話し合ったり、地域の情報を共有することで繋がりを深めることが可能になるという事を想定している。そうすることにより、「この人がいるから室蘭から離れたくない」と言うような市民同士を引き合わせる事を実現し、室蘭離れを減少させるアイデアである。またニュース機能は室蘭市 HP や室蘭民報の閲覧の実装を想定している。また室蘭市が配付しているゴミカレンダーの閲覧も可能としている。

アイデアの内容

→上記した通り、主にチャット機能を有したアプリケーションであるとともに、ニュースの閲覧といった室蘭市の出来事を知ることができる追加機能もある。チャットは話題毎に分けたルーム内で会話する複数人チャットと、1対1で会話できる個人チャットの実装を考えている。複数人チャットのルームは室蘭に関する話題に関して運営側で作成するものとする。例えば、「観光」というルームで室蘭の観光名所について、「食べ物」というルームで室蘭のグルメについて会話できるといったものである。上記のようなルームの実装によって、より室蘭市に特化したアプリケーションとなることを想定している。個人チャットの実装では、個々間のつながりを深める事を目的としている。ニュース機能は、室蘭市の話題を閲覧する機会を増やして、ユーザーの室蘭市への興味をより深める事を目的としている。先述の通りチャットを主な機能としたアプリケーションであるが、室蘭市のニュースやゴミカレンダーの閲覧の機能をプラスすることで、より室蘭市民にとって有用なアプリケーションになるようにしている。

実装方法はチャット機能を実装する関係で Web アプリケーションで行うものである。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

このアイデアを提案する理由としては、少子高齢化社会・若者の道外進出により、例年、室蘭市自体の人口減少が進んでいることがきっかけである。室蘭の好きを増やし、少しでも地域のコミュニティを増やし、市民同士の関わりを強化し、「この人がいるから、この場所があるから、室蘭市を出たくない」と思えるようなきっかけを作りたいと思い今回このアプリケーションの開発を提案した。

なぜこのアイデアがいいと思ったかという、やはり、地域での関わりが少ないと感じたからである。人々が気軽にコミュニケーションをとれる場所があれば、地域の活気が少しでも上がり、この町で過ごしていきたいと思える環境を作ることができると感じたからである。特に若い世代の人口割合は、室工大生を除くと年々下がっており、そういった若い世代がこの町に残ることにより今後の室蘭市の発展に繋がるのではないかと考える。室蘭市のホームページを拝見しても、年々人口は減少しており、以前の鐵の町と言われていた室蘭市の活気を取り戻すことはかなり厳しい状況であることが分かる。

また、私たち大学生の意見として、どのような事が住みづらい点なのかを話し合った結果、ゴミ分別が分かりづらいといったゴミ収集に関しての意見が多く挙がった。そこで、今回提案するチャットアプリに付随させる形でゴミ分別機能やゴミ収集のカレンダーも取り入れようと考えた。他にも室蘭市でのイベントや行事、出来事などを気軽に閲覧できるように室蘭市のホームページのサイトとも連携させ、より地域特化型のコミュニケーションアプリを開発したいと考える。その1つとして私たちが実装を考えているのが室蘭市 HP と室蘭民法のニュースを表示させる機能である。室蘭市が挙げている総合計画の中にも計画のポイントとして、「市民と共有できる分かりやすさ」というものがある。市民、団体、企業、行政などそれぞれが互いに連携し、街づくりに取り組むことが重要視されているため、そういった点では地域住民の関わり合いの他、室蘭市で起きている現状を知るきっかけになるアプリが必要であると感じた。

参考文献

[室蘭市／室蘭市住民基本台帳人口統計資料 \(muroran.lg.jp\)](http://muroran.lg.jp)

[北海道室蘭市の人口推移 | 日本の人口推移 \(population-transition.com\)](http://population-transition.com)

[室蘭市／室蘭市の総合計画 \(muroran.lg.jp\)](http://muroran.lg.jp)

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきま<

<以下のように分けて書いていきます>

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

実現する主体

→実現する主体は Web アプリケーションを用いる事を想定している。メイン画面に掲示板のタイトル作成、過去タイトル一覧、ゴミ分別検索機能の 3 つが選択できるようにする。

実現に必要な資源

→この掲示板を作成するにあたり、プログラミング知識が豊富な人が必要になる。それほど複雑な設計ではないため、開発自体はさほど難しくはないと思われるが、やはり有識者が作成した方がミスやエラーが無くなるため、知識豊富な人がいることに越したことはない。また、私たちは学生 5 人でこのアプリケーションを作成しているため、作成に非常に時間がかかってしまう。

作成するにあたり、必要なものはパソコンがあれば事足りる。作成に必要なアプリなどはあるが、その場合はダウンロードをすることで、ネット環境があればさほど困ることはないと考え。

実際にアプリ開発費用に関しては、法人の場合、シンプルな機能のアプリ開発には 556 万円～834 万円、標準アプリの開発は 834 万円～2085 万円、複雑なアプリの場合、4170 万円以上が相場とされている。今回作成しようと考えている掲示板アプリはさほど複雑な構造は予定していないかつ、法人と仮定した場合、最大でも 834 万円以内で作成可能だと考える。とはいえ、そのような高額な資金は我々学生にはとても準備できる額ではないため、本格的に作成するのであれば支援していただくことが前提条件となってしま。

実現に至る時間軸を含むプロセス

→実際に開発するとなると期間としては 6～12 か月を想定している。とはいえ開発を行うメンバーが多ければ多いほどこの期間は短くなると考え、さらに複雑な機能を有するアプリを開発するわけではないため、もう少し短い期間で開発は可能であると推測できる。

参考文献

[【随時更新】アプリ開発費用ってどれくらい？依頼した場合の相場や金額をシミュレーション | モバイルマーケティング研究所 | ModuleApps 2.0](#)

